

私を育てた  
あの時代、あの出会い

第5回

# 専門性を追究し続ける大切さを 先輩の後ろ姿に学んだ

山口県 山口市立小郡中学校校長 白杵裕世 USUKI HIROYO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、白杵校長が語る。

感性を磨き続けることが  
指導力を伸ばす

教師歴7年で赴任した中学校は25学級もある大規模校でした。美術教師は私を含めて3人。そのうちの一人、山路光男先生に私は大きな影響を受けました。先生は当時50歳くらい、作品は必ず仕上げるように指導する、厳しい面のある先生でした。その姿勢は私たち後輩教師に対しても同じでした。ある日、授業の準備をしていると、山路先生に「戸は閉めるものだよ」と言われました。美術では彫刻刀などを生徒に貸し出すため、戸棚からよく出し入れします。その引き戸が開いたままだったのです。また、私が封筒を手で破いて開封していると「封書ははさみで開けなさい」と注意されました。細かく見ているなあと思いましたが、美術は道具を使う教科です。安全面や生徒指導面も考えて道具を大切に扱うのは当然の心構えでした。そしてそれ以上に、次に戸棚を使う人や手紙をくれた人への気遣い、普段から一つひとつの所作を丁寧に行う大切さを先生は伝えたかったです。私は自分が戸を閉めるくせが付いてようやく、そのことに気付きました。

うすき・ひろよ 高校時代に美術部に所属、美術教師を志す。山口大教育学部附属光中学校、都濃郡鹿野町立鹿野中学校校長、岩国教育事務所所長等を経て、2009年山口市立小郡中学校に赴任。山口県中学校文化連盟会長なども歴任。



## 高校時代

絵を描くうちに  
美術の教師を志す

### 1973 (昭和48)

新採として厚狭郡  
楠町立吉部中学校  
(現宇部市立楠中学校)  
に赴任

### 1979 (昭和54)

下関市立  
山の田中学校に赴任。  
山路光男先生と出会う

### 1986 (昭和61)

山口大教育学部附属  
光中学校に赴任。  
授業研究に力を入れる



授業研究はテーマごとに  
冊子にまとめた

### 1994 (平成6) ごろ

地域の社会人向け  
絵画教室などで  
ボランティア講師を務める

### 1999 (平成11)

都濃郡鹿野町立  
鹿野中学校  
(現周南市立鹿野中学校)  
に校長として赴任

### 2009 (平成21)

山口市立小郡中学校に  
赴任

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のもので

## 「自分では分からない良さに 気付かせるのが教師の役目」



山路先生は制作活動にも意欲的に取り組まれ、展覧会に毎年出品し、個展を何度も開かれていました。授業と校務、展覧会の世話役等も務められ、とても忙しいはずなのに、自分を律して制作していたのだと思います。私も大いに刺激を受け、長期休業などを使って制作に励みました。新たな技法を身に付けると、表現の幅が広がって、感性も磨かれます。教師は好きな絵を描きながら続けられる仕事とと思っていましたが、

制作は教科の専門性を高める上で重要だと学びました。今考えると、山路先生に影響を受けた一つひとつの出来事が深く心に刻まれているのは、作品制作を通じて専門性を追求する姿勢に、私が深く共感し、引かれていたからだと思います。

**一人ひとりの良さを見付け  
更に伸ばしてあげたい**

35歳で赴任した中学校では、授業研究に打ち込みました。山路先生を

真似て、学校近くの有名な海岸など地域性のある素材を教材に取り入れました。また、美術の授業は個人制作に終始しがちですが、私は集団指導の良さを生かして生徒の力を伸ばしたいと考えました。例えば、生徒に絵を2、3枚見せて気付いたことを話し合わせ、見る人に感動を与える絵にするにはどうすればよいかと投げ掛けました。すると、生徒から多様な意見が出て、互いに想像力や意欲を刺激し合えるのです。

授業では、生徒自身が気付いていない良さを見付け、価値付けることに力を入れました。生徒の発言や描いた絵はどこがどう素晴らしいのか、機を逃さずに伝えるようにしました。美術は自らの内なるものを表現する教科です。作品を生み出すのは自分自身であり、それは友だちと違って当然です。制作や話し合いを通して、他者との違いに気付き、自分も友だちも認める大切さを実感してほしいという思いもありました。

校長になった今は、特に若手の先生にそれぞれの良さを伝えるようにしています。山路先生が私を見てくださったように、一人ひとりをしっかり見ようと心掛けています。私が

人生の指標としている言葉に「思い立って取り組んで、出来ていることを確認して、更に励む」という言葉があります。出来たところを見つけ、更に伸ばそうと頑張る。駄目なところを見つけ穴埋めするよりも前向きになり、頑張ろうと思えるからです。

山路先生は人と人との結び付きをとても大切にされていました。山路先生を見習い、私も展覧会の世話役などを積極的に受けるようにしています。2011年3月で定年退職を迎えましたが、私が山路先生と出会えたように、今度は自分が出会う場をつくっていききたい。学校外での出合いの場を広げることで、先生方が専門性を高め、指導力を高める手助けをしたいと思うからです。そのためにも、これからも作品を作り続け、美術という自分の専門分野に磨きをかけていきたいと思っています。



白杵先生は、今もほぼ1日1枚のペースで野菜や花など身近なものを水彩画に描いている。「もっと感性を高めたい」という思いが、忙しい合間にも描き続けられる原動力だという